

地域別集計報告 2021-12月

12月評価における経産牛の遺伝的能力評価値について、地域別の集計結果を掲載しています。

< 比較対象 >

改良の進み具合が分かるよう、現在と3年前の能力を比較したグラフを表示しています。

現在の値には2018年生まれの個体、3年前は2015年生まれの個体を対象に、SBV(標準化育種価)の平均を計算し、SBVの平均値と、()内には3年間の増加量を表示しています。

< 地域区分 >

個体数ができるだけ均等に確保できるよう、北海道、東北地方、関東地方、北陸・中部地方、近畿・中国・四国地方、九州・沖縄地方の6つの地域に分けて集計しています。

< 対象形質 >

泌乳形質や体型形質などから、総合指数にも関係する、乳量、乳蛋白質量、肢蹄、乳器、体細胞スコア、泌乳持続性、在群能力の7形質の評価値を対象としています。

体細胞スコアは値が低くなるほど好ましい形質であるため、正負の符号を逆にした値を掲載しています。

地域の特徴

- 北海道 -

- ・泌乳形質の評価値が高く、乳量、乳蛋白質量、在群能力は地域の中で一番高い。
- ・乳器は増加量が一番大きい。

- 東北 -

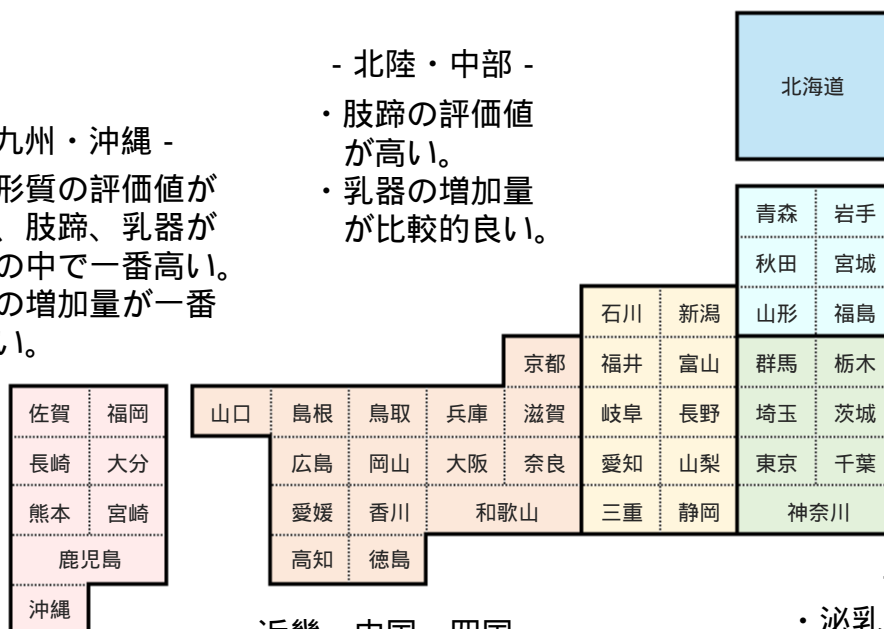
- ・体細胞スコアの評価値が一番高い。
- ・全体的に3年間の増加量が大きく、乳蛋白質量、体細胞スコア、在群能力は地域の中で一番大きい。

- 北陸・中部 -

- ・肢蹄の評価値が高い。
- ・乳器の増加量が比較的良い。

- 九州・沖縄 -

- ・体型形質の評価値が高く、肢蹄、乳器が地域の中で一番高い。
- ・肢蹄の増加量が一番大きい。



- 近畿・中国・四国 -

- ・乳量、乳蛋白質量の評価値が高い。
- ・泌乳持続性の増加量が地域の中で一番大きい。

- 関東 -

- ・泌乳持続性が地域の中で一番高い。
- ・乳量の増加量が一番大きい。

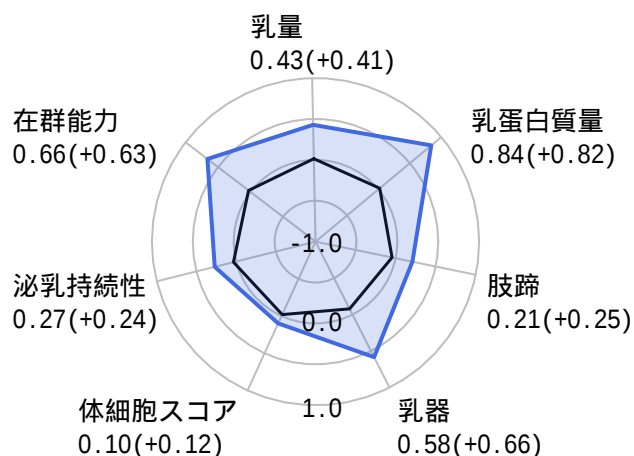
注) 増加量：各形質の「評価値」の増加量

■ : 2018年 ■ : 3年前(2015年)

n = 乳量・乳蛋白質量/肢蹄・乳器/体細胞スコア/泌乳持続性/在群能力について、2018年の平均値を計算した個体数

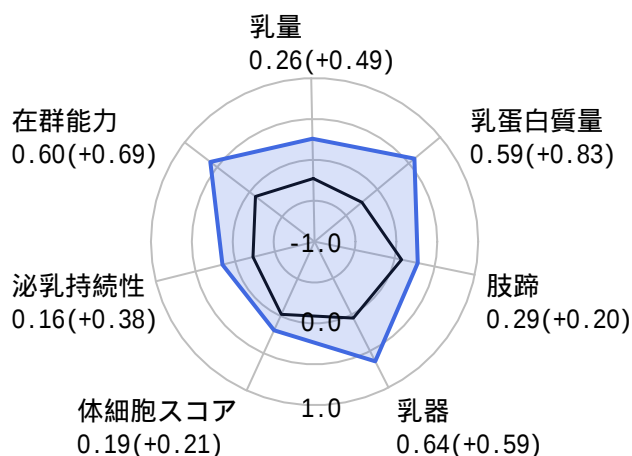
北海道

n = 103,050/ 23,396/ 98,119/ 103,050/ 10,529



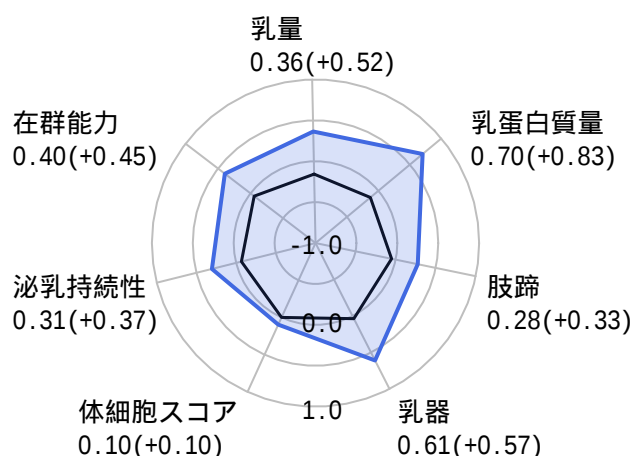
東北

n = 6,025/ 2,264/ 5,736/ 6,025/ 593



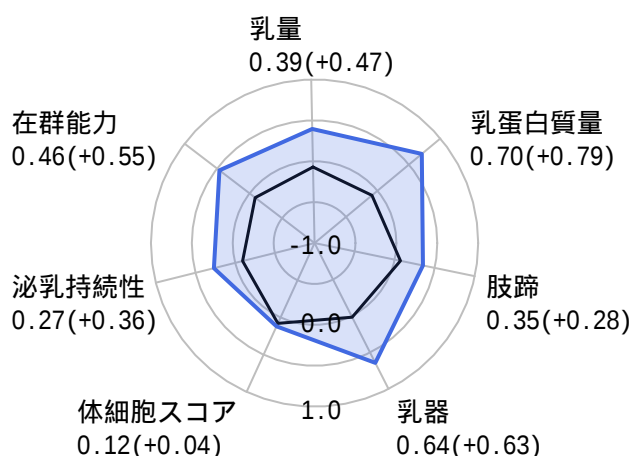
関東

n = 8,239/ 2,862/ 7,780/ 8,239/ 731



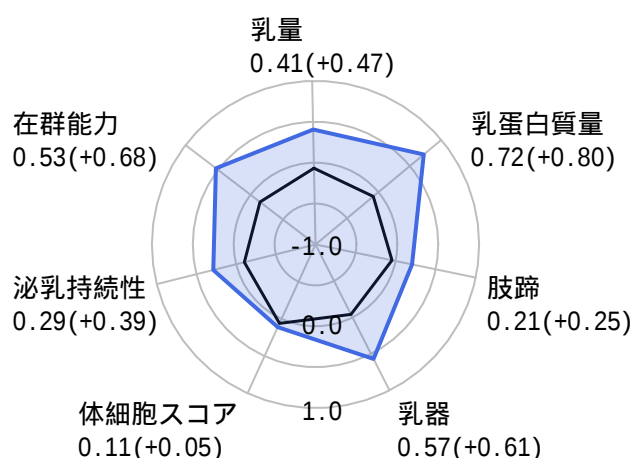
北陸・中部

n = 3,333/ 1,352/ 3,137/ 3,333/ 233



近畿・中国・四国

n = 5,665/ 1,515/ 5,386/ 5,665/ 492



九州・沖縄

n = 10,121/ 2,730/ 9,503/ 10,121/ 1,320

